

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370101606		
法人名	医療法人 ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷なかよし苑		
所在地	岡山市北区下足守2182番地		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370101606-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370101606-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成27年3月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

周囲が緑豊かな田園風景が広がり、ゆったりとした環境の中で当苑は1ユニット9名と小規模な為、ご利用者様も職員も家族同様と思い共に感じることに、その人らしい生活に近付ける為の自立支援を心掛けています。当苑では介護福祉士などの資格を持った介護経験豊かな職員も半数以上占め、ご利用者様に沿った安心して生活できるよう必要な支援や援助、また、質のある介護を提供している。健康状態にも十分配慮しており、常に看護師や医師との関係機関との連携を図り、緊急時にも速やかな対応に努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

男女利用者が集まって手鞠寿司を作って昼食準備をしていた。紅麴、胡瓜、煎玉子等を飾り、可愛いお寿司を丸めて、各々の利用者の配膳に並び、ちらし寿司と共に昼の食事を楽しませていた。歯の調子が悪い人、お箸やスプーンで一生懸命に口に運んでいる人たちに職員は傍らに寄り添って、利用者が一生懸命に食べようとする意欲をじっと見守り、あるいはさり気ない支援で、利用者は自分の手で一生懸命に口に運び、長い時間をかけて自分の力で食べている姿を見る事が出来た。全員が自分の持っている能力を発揮して、美味しい可愛いお寿司を長い時間をかけて完食した。足の不自由な人も手押車や杖を使って移動は自分の力で歩く。一人ひとりの意志と能力を発揮させてあげようとするこのホームの支援の在り方を実践している様子が確認できた。このホームの伝統としている利用者で作る大作が壁一面と利用者の個室に貼り出され、ホームの貼り絵のギャラリーは十数年の歴史を未だに続いていた。利用者の一人ひとりの能力を維持し、又、新たな能力を発揮する素晴らしいホームを見た。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念を事務所内に提示する事で職員の意識付けを行い、職員一人一人が理念を念頭に日々の業務に意識して取り組んでいる。	ホームの理念は、開設時母体法人の理念に沿って作成され、同一母体法人の他のグループホームとも同じだが、開設して16年を経た今も変わることなく、日々の支援の指標となっている。職員ミーティングでも話し合い再確認している。	職員みんなで話し合って、理念に沿った具体的な目標を作成してはどうか。皆で取り組みれば連帯感も生まれ、自分たちの日頃のケアを見直す良いきっかけになりそうだ。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑内の新聞を2ヶ月毎に発行し地域の皆さんに回覧することにより、苑での活動や行事を報告している。また、地域の行事活動へも出向き、地域の方々との交流を図っている。	母体法人関連施設と共同で、バザーや夏祭りを企画し、地域の人を招待している。ホームは町内の清掃活動に参加し、地域住民として交流を深めている。地域の人からも野菜の差し入れがあり、毎月、ボランティア訪問がある等良い関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など地域の方々が集まる機会の中で地域密着型サービスとしての理念や運営方針に関する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催し、苑の利用状況・活動状況の報告を行っている。様々な分野からの参加者により意見や感想、提案等を頂きながら当苑の運営に反映している。	地域包括支援センター職員・利用者・民生委員・婦人会の人等が出席して、定期的に運営推進会議を開催できている。参加者から、ホームの緊急連絡網に地域の防災担当者も含めてはどうかとの提案があり実現する等、会議開催効果もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めに入苑者の報告を行なっていると共に、運営上の問題が起きた場合、市区町村担当者と連絡を取り相談や指示を仰ぎ、利用者の生活に必要な情報を得ている。また、生活保護者の入居もあり、社会福祉等の協力体制も整えている。	包括支援センター担当者は、毎回ホームの運営推進会議に出席しアドバイス等もしてくれているので、ホームの実情はよく把握できている。何かあればその都度、市の担当者に相談して指導・助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員皆が閲覧できるようにしている。また、苑内で定期的に勉強会を開き意見交換をしながら、身体拘束を行わない為の取り組みについて話し合いをし、職員一人一人の意識付けを心掛けている。	転倒の危険がある人へのセンサーマット使用について、家族と相談し合う記録があった。現時点では該当するケースはないが、言葉による拘束など具体的な事例についても勉強会をして、全職員で認識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止に関する勉強会を開き、介護上での経験や困ったこと等を話し合い、虐待についての知識と理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があると認められる利用者様のご家族に対し、情報の提供や申請のための支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約など利用者様やご家族に十分に理解してもらえるよう説明を行っている。また、質問や疑問などあれば、その都度、説明を行う体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会やご家族の面会時などに意見や要望を聞くように努め、また、ケアプラン更新時には利用者様とご家族に質問や意見の場を設け、要望等を反映できるように努めている。	敬老会やクリスマス会等ホームの行事に家族を誘い、家族会も実施して、話し合いの場を設けている。それぞれの利用者の日頃の様子やエピソードを個別生活状況報告書にまとめて毎月家族に送付し、利用者の写真満載の“なかよし苑だより”も発行して、情報提供に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを設け、職員一人ひとりの意見や提案を聞き、反映させるよう努力している。	母体法人は職員の事情に合わせ、法人内異動や勤務時間の変更など、職員が働きやすいよう配慮してくれる。管理者は現場の声を率直に伝え、母体法人は出来る範囲で対応してくれているようだ。職員達は会話も多く、明るく元気に働いていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苑内で出た問題点等は管理者から施設全体責任者へ伝えている。また、年2回の自己評価を行い、能力の開発や意欲向上・状態把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修への参加には勤務調整を行いながら積極的に参加し、職員の経験や実力に応じて研修等の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会している。同業者との交流の機会があれば積極的に参加を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者には御本人はもちろん御家族からも話を聞き、話しやすい雰囲気作りや要望に耳を傾け、また、職員間で情報を共有する事で利用者様が早く苑に馴染める環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には不安もあり出来るだけ話をする機会を設け、不安を少しでも取り除けるよう配置している。また、話しやすい雰囲気作りを心掛けると共に、御家族のご要望や思いを受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入苑者の面接には管理者と介護支援専門員が行き、2名で状態把握を行い、御本人とご家族の方の意見や状況を見極め、入苑までの対応を検討する体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で利用者様が無理のない程度で出来ること(洗濯たたみや裁縫等)を様子を見ながらお願いして個々の状態に合わせ、日々の変化に重点を置き関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の希望に近付けるよう月末にご本人の様子や活動状況などを報告書として作成し、郵送してご家族に理解して頂き、御家族の負担にならない程度に協力してもらっている。また、楽しい時間を共有してもらう事により、御家族との良好な関係が築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人が来苑された時には楽しく過ごして頂けるよう場所や雰囲気づくりを提供し、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	みんなそろって「いただきます」が待たなくて、目の前に配膳された食事をちょっと一口食べる人に「あらら、これ、これ！」すかさず仲間が注意して顔を見合わせ笑い合う。ホームで巡り合った心地良い友達の輪の中で生活していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操や会話・行事を通じて利用者同士が交流を図れるよう支援している。意思疎通が図れていない場合やトラブルへと発展しそうな場合には職員が仲介するよう努めている。また、皆さんが好きな外出等を計画し気分転換を図りながら互いに交流の場が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた場合でも身体や精神状況はもちろん、利用者様の趣味や生活についても、御家族の置かれている状況等を踏まえながら支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入苑者様の今までの生活を大切に、御本人の気持ちや思いをお聞きし、寄り添えるよう心掛けています。出来るだけ自己決定が出来るよう声掛けを行っているが、困難な場合は表情やこれまでの生活歴などから汲み取るようにしている。	「ちょっと、あんた」遠慮なく職員を呼んで「あの人がこれを盗ろうと狙っている」気がかりを伝える。職員は気長に話を聞き「心配してくれるんだね。ありがとう」利用者は安心して納得の笑みになる。思いや気持ちを大切にされた支援が出来ていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人の生活歴や馴染みの暮らし方を尋ね、御家族の面会時や入苑前の状態や様子など聞き取りを行い、把握するよう努めている。また、御本人の会話の中で知り得たことなど職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入苑者様の日々の行動や状況、出来る事や出来ない事を把握しカンファレンスを通じて話し合い、職員全員で一人ひとりの自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人にとって、どのような支援が必要とし、より良い生活が出来るかを職員で話し合い、御家族の要望や希望をお聞きし、介護計画を作成している。また、日常生活の中からも御本人の意向の抽出に努めている。	ホームは、利用者の現状をしっかりと把握し、その個人記録からケアプランにつなげていく事を目標達成計画に掲げて取り組んだ。今後は更にそれを深めて、より分かりやすく細やかな記録を残すよう努めたいと考えている。	職場では、利用者によくコミュニケーションを取り、とても良い支援が出来ているのに、それが記録として残っていないのが残念に思った。記録の方法を工夫したいとの声も聞いたので、是非検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については記録に残し、その中で問題があれば、その都度、話し合いを行い、ケアの実践に生かしている。また、申し送り事項に記入し、職員間で周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と連絡を取りながら希望や要望に応じ、ご本人に合ったサービスに努めている。また、急変時の緊急病院受診対応など御本人のニーズに合わせ柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店・行楽地等、利用者様やご家族の意向をもとに資源の活用を心掛けている。今後も、より意向に沿った支援が行えるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に御本人やご家族の希望を伺い医療機関を決定し、現在希望されているか、かかりつけ医と当法人との連携を図り、電話で状況を報告し相談できる関係を築いている。また、夜間や休日でも迅速な対応が出来る事を目的に御家族にも理解を得ている。	家族が受診支援をしているが、都合がつかない時はホームでも対応している。ほとんどの利用者の主治医は母体の医療法人なので、何かあればすぐに対応してもらえる。毎週、母体法人から医師が往診に来て健康チェックしてくれるの安心だ。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者の変化を随時看護師に連絡し、必要があればDrと相談してもらっている。また週1回以上は勤務し状態把握に努め、アドバイスや必要な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的にお見舞いに伺い、御本人の様子をお聞きし、退院時には状態把握に努めている。また、医師や看護師・ケースワーカーと話し合い、早期退院や退院後の支援の方法について協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入苑時には苑で定めた重度化の指針や看取りに関する指針を説明し方向性を共有している。ご家族への今後、予想される状態の変化について報告・相談を行い、方針の明確化に努めている。	特養や老健入所待機中の利用者が殆んどなので、重度化すれば施設に入ったり、入院するケースが多いが、ホームでターミナル支援を行った人も居る。本人や家族の希望に沿って、医療的な問題もなく、主治医や家族の協力が得られ、条件が合えば出来る限りの支援をしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急時対応マニュアルを掲げ、職員間で共有している。また、看護師を講師に緊急時の対応や病気についての勉強会を開催し、いつでも対応できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災マニュアルや緊急連絡網を作成し、職員に周知徹底を図っている。また、年2回の消防訓練を行い、円滑な誘導ができるようにしている。地域の方にも会議の場を通じ災害の取り組みについて説明し理解を頂いている。	利用者も参加して、同一母体関連施設と合同で、昼と夜を想定した避難訓練を実施した。運営推進会議でも避難経路について話し合い、「避難場所の小学校へ行くには、遠いし途中で川もあり危険では」の意見が出て対策を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の尊厳やこれまでの人生を尊重し、プライバシー保護に努めている。また、御本人の自尊心を損ねないような対応に留意している。	「私、料理するのが好き。魚料理でも何でもするよ」上機嫌で配膳を手伝う人、「この人歌上手よ」仲間に褒められて満更でもない顔する人、テーブル拭きは自分の仕事と張り切る人等、それぞれの好きな事や特技を活かした支援が出来ていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様主体となる考え方を念頭に可能な限りご本人の思いや希望を働きかけご本人にお満足が得られるよう支援を行っている。また、自己決定できない利用者様については自分の思いや希望を選択し、自己決定できるようコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が今まで過ごされてきた生活を大切に、その時にある気持ちを優先できるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば指定の理髪店が来苑され散髪を行っているが、利用者様の希望で行きつけの美容院があれば行けるようにご家族と連携を図るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって食事の時間は楽しみの時間でもあり、一人ひとり食べやすい食事形態に配慮し、職員も同じテーブルで楽しく食事が出来るよう支援している。また、食事前後の台拭きなど状態を見ながら一緒に行い、出来る事への楽しみを感じてもらっている。	今日の昼食は、みんな大好きなお寿司。いつもはキザミ食の人も何故かお寿司なら皆と同じものが食べられる。利用者達は時間がかかっても、自分の力で頑張って食べる。職員は余計な手出しせず、足りない部分だけフォローして気長に見守る。出来る事は残したい、強い気持ちを感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理の下献立が作成されている。食事量や水分量が少ない方には記録などに記入し状態把握に努めている。バランスについてはご本人の好みもあり、偏った摂取にならないよう日々の声掛けを行い、バランスよく摂取するよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・歯磨き・入れ歯はポリドントを使用して消毒し、自力で出来ない方は一部介助または、全介助を行い、清潔保持に努めている。また、歯科医と連携し随時、相談や往診を行ってもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄間隔の把握に努め、トイレへの働きかけをするように努めている。また、検討を行いながら可能な限りトイレでの排泄が行えるよう取り組んでいる。	「はい、頑張って！ 1・2・3」職員の声に励まされ「よいこらしよ」立ち上がり、手押し車で、歩行器でトイレまで歩いて行く。安易に車椅子を使用せず、トイレへ行くのもりハビリで、出来る限りトイレでの排泄を支援していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排便チェックを行い、水分量や運動量等を把握し予防に努めている。また改善が見られない場合は医師に相談し指示の下、必要あれば投薬などを行い便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時にはバイタルチェックを行い、特変のない方は決められた時間(午前・午後)と分けてゆったりと入浴できる環境を整えている。また、こちらの都合で急がせることの無いよう時間にゆとりを持ち、会話を楽しみながら行える環境づくりを心掛けている。	洗髪に拘りがあり、自分で洗いたいと、スムーズに入浴出来ない人がいた。体力面も考慮して、本人・家族とよく話し合い、気長に対応するうちに改善出来た。今は該当者はいないが、重度化すれば同一母体法人のデイサービスの特浴利用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠が出来るよう毎日の日課としてラジオ体操や筋トレの運動を取り入れている。また、個々の状態や休息を希望された場合は、時間帯にとらわれず無理なく休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用リストを作成し、処方された薬などの記録を取り、入苑者の服薬情報を職員で確実に把握するように努めている。また、新たな薬が追加された場合などは、状態の観察を細かく記録し、状態の変化を見極めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における役割については継続して行えるよう支援していき、その中で、新たな役割を見つけれられるよう努めている。ちぎり絵や歌、買物・ドライブなど御本人が楽しみと思えることについても行っているが、活動を通して新たな楽しみが探せるような関係作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の趣味や習慣を基に週1回のドライブや希望により買い物に行くなど支援を行っているが、個々の状態もあり、全員の外出は困難になってきている。	初詣・花見・紅葉狩り等、季節の行楽だけでなく、外食やドライブにも出かけている。同じ町内にある同一母体法人のグループホームへも気軽に訪問して交流している。これからは気候も良くなるので、少人数のフットワークの良いお出かけを楽しみたいと考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や希望・家族の要望に応じ、自分で所持している事もあるが、基本的には金銭はお預かりしている。毎月末には、お小遣いの収支をご家族へ郵送し、お小遣いの使い道を把握して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や友人など宛にかかってきた電話は可能な限りご本人が直接会話ができるようにしている。また、要望があれば電話をかける支援も行い、コミュニケーションを取れるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃を分担して行い、清潔保持に努めている。ホールには手作りの飾りつけを行い、季節が感じられるよう工夫している。また、こまめな喚起や温度調節を行い、気持ち良く過ごせて頂けるよう工夫している。	季節感溢れる折り紙貼り絵と利用者の写真を上手くレイアウトした掲示物、“なかよし苑の一年”日常が良く分かって楽しい。リビングの壁面やドアまでも、ホームのあちこちに作品群があり、まるで手作り美術館みたいだった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座るテーブルにも決められた席が確保されており、また、ソファのスペースがあり、独りの時間や気の合う利用者様同士や職員とが、ゆったりとしや関わりが持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入苑時に馴染みの物を可能な限り入れてもらうようにして環境の変化を最小限にしながら利用者様にとって居心地良い空間が作れるようにしている。	消灯台・ベッド・タンスは備え付けで、広々としたゆとりのある居室で窓からの景色も良く、明るい感じがする。チェスターや物入れ家具を満ち込む人や、写真や手作り作品を飾る人も居て、それぞれの人らしい居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや脱衣所、個室には個人の名前を表示し、迷うことが無いようにしている。夜間は小さな間接照明をつけ、場所が分かるようにして見守りを行っている。		